

KM-70HD/SD
2KEY MIX
取扱説明書

必ずお読みください！

ビデオトロン株式会社

この製品を安全にご使用いただくために



警告

誤った取扱いをすると死亡または重傷、火災など重大な結果を招く恐れがあります。

1、電源プラグ、コードは

- ・指定された電源電圧(AC100V 50/60Hz)以外では使用しないでください。
- ・AC 電源(室内電源)の容量を超えて機械を接続し長時間使用すると火災の原因になります。
- ・差込みは確実に。ほこりの付着やゆるみは危険です。
- ・濡れた手でプラグの抜き差しを行わないでください。
- ・抜き差しは必ずプラグを持って行ってください。コードを持って引っ張らないでください。
- ・コードは他の機器の電源ケーブルや他のケーブル等からませないでください。
- ・コードの上に重い物を載せないでください。電源がショートし火災の原因になります。
- ・機械の取り外しや清掃時等は必ず機械の電源スイッチを OFF にしてからプラグを抜いてください。

2、本体が熱くなったら、焦げ臭いにおいがしたら

- ・すぐに電源スイッチを切ってください。ただし、電源回路上、切れない場合があります。その時は電源プラグを正しく抜いてください。機械の保護回路により電源が切れた場合、あるいはブザーによる警報音が出た場合にはすぐに電源スイッチを切るか、電源プラグを抜いてください。
- ・上下に設置されている機械の電源スイッチまたはメインのブレーカーを切ってください。
- ・空調設備を確認してください。
- ・しばらく、手や体を触れないでください。ファンの停止が考えられます。設置前にファンの取り付け場所を確認しておきファンが停止していないか確認をしてください。5年に一度はファンの交換をおすすめします。
- ・機械の通風孔をふさぐような設置をしないでください。熱がこもり火災の原因になります。
- ・消火器は必ず1本マシンルームに設置し緊急の場合に取り扱えるようにしてください。
- ・弊社にすぐ連絡ください。

3、機械の近くでは飲食やタバコ、火気を取り扱うことは絶対に行わないでください。

- ・特にタバコ、火気を取り扱うと電気部品に引火し火災の原因になります。
- ・機械の近く、またはマシンルーム等の密閉された室内で可燃性ガスを使用すると引火し火災の原因になります。
- ・コーヒーやアルコール類が電気部品にかかりますと危険です。

4、修理等は、ご自分で勝手に行わないでください。

下記のあやまちにより部品が発火し火災の原因になります。

- ・部品の取り付け方法(極性の逆等)を誤ると危険です。
- ・電源が入っている時に行くと危険です。
- ・規格の異なる部品の交換は危険です。

5、その他

- ・長期に渡ってご使用にならない時は電源スイッチを切り、安全のため電源プラグを抜いてください。
 - ・重量のある機械は1人で持たないでください。最低2人でかかえてください。腰を痛めるなど、けがのもとになります。
 - ・ファンが回っている時は手でさわらないでください。必ず停止していることを確かめてから行ってください。
 - ・車載して使用する時は確実に固定してください。転倒し、けがの原因になります。
 - ・本体のラックマウントおよびラックの固定はしっかり建物に固定してください。地震などによる災害時危険です。
- また、地震の時は避難の状況によりブレーカーを切るか、火災に結び付かない適切な処置および行動を取ってください。そのためには日頃、防災対策の訓練を行っておいてください。
- ・機械内部に金属や導電性の異物を入れないでください。回路が短絡して火災の原因になります。
 - ・周辺の機材に異常が発生した場合にも本機の電源スイッチを切るか電源プラグを抜いてください。



注意

誤った取扱いをすると機械や財産の損害など重大な結果を招く恐れがあります。

1、操作卓の上では飲食やタバコは御遠慮ください。

コーヒーなどを操作器内にこぼしスイッチや部品の接触不良になります。

2、機械の持ち運びに注意してください。

落下等による衝撃は機械の故障の原因になります。

また、足元に落としたりしますと骨折等けがの原因になります。

3、フロッピーディスクやMOディスクを取り扱う製品については

- ・規格に合わないディスクの使用はドライブの故障の原因になります。
- マニュアルに記載されている規格の製品をご使用ください。
- ・長期に渡り性能を維持するために月に一回程度クリーニングキットでドライブおよびMOディスクをクリーニングしてください。
 - ・フィルターが付いている製品はフィルターの清掃を行ってください。
- 通風孔がふさがり機械の誤動作および温度上昇による火災の原因になります。
- ・強い磁場にかかる場所に置いたり近づけたりしないでください。内部データーに影響を及ぼす場合があります。
 - ・湿気やほこりの多い場所での使用は避けてください。故障の原因になります。
 - ・大切なデーターはバックアップを取ることをおすすめします。

●定期的なお手入れをおすすめします。

- ・ほこりや異物等の混入により接触不良や部品の故障が発生します。
- ・お手入れの際は必ず電源を切ってプラグを抜いてから行ってください。
- ・正面パネルから、または通風孔からのほこり、本体、操作器内部の異物等の清掃。
- ・ファンのほこりの清掃
- ・カードエッジコネクタタイプの基板はコネクタの清掃を1ヶ月に一度は行ってください。

また、電解コンデンサー、バッテリー他、長期使用劣化部品等は事故の原因につながります。
安心してご使用していただくために定期的な(5年に一度)オーバーホール点検をおすすめします。
期間、費用等につきましては弊社までお問い合わせください。

**上記現象以外でも故障かなと思われた場合は弊社にご連絡ください。

☆連絡先.....ビデオトロン株式会社

〒193-0835 東京都八王子市千人町2-17-16

TEL 042-666-6329

FAX 042-666-6330

受付時間 8:30~17:00

E-Mail cs@videotron.co.jp

◎土曜・日曜・祝祭日の連絡先

留守番電話 042-666-6311

緊急時 ** 090-3230-3507

受付時間 9:00~17:00

**携帯電話の為、通話に障害を起こす場合がありますので、あらかじめご了承ください。

..... 目 次

1. 概 説	1
《特 長》.....	1
2. 機能チェック	2
1. 構 成.....	2
2. 筐体への取り付け.....	2
3. POWER ON までの手順.....	2
4. 基本動作チェック.....	2
3. 各部の名称と働き	3
1. KM-70HD/SD.....	3
4. 操作方法	4
1. 基本操作.....	4
2. メニューツリー.....	5
3. AUTO GAIN [AGAI].....	8
4. REMOTE [REMO].....	8
5. 出力位相調整(SYSTEM PHASE).....	9
6. REF SEL [RSEL].....	9
7. KEY CLIP.....	9
8. 操作例.....	11
9. 工場出荷時の設定.....	13
5. 外部インターフェース	13
1. GPI.....	13
6. トラブルシューティング	14
7. 仕 様	15
1. 機 能.....	15
2. 定 格.....	15
3. 性 能.....	15
8. 系統図	17

1. 概説

本装置は、HD/SD-SDI信号に対応した2KEY MIXモジュールです。2組のフィル/キー信号を入力し、片方をベースにフィル/キー信号に合成してフィル/キー信号を出力します。キー信号は入力毎個別にゲイン調整ができます。またトランジションも入力毎カット、フェードを設定できます。Vbus-73B標準棚板に3モジュール実装しカスケード接続しますと6入力ミックスまできます。

《特長》

- 入力信号はHD-SDI/1080i/59Hz、SD-SDI/525iに対応
- 2組のフィル/キー信号を個別にカット、フェードが可能
- プレビュー出力あり、FILL、KEYの選択可能
- FILL入力からKEY信号を作り出すセルフKEY機能
- KEY信号のゲインを個別に調整可能
- KEYにエッジを付けることが可能(2H、4H、6H、8H、ハード、ソフト)
- スーパを任意のポジションに移動可能
- 外部接点でTAKE可能
- Vbus専用棚板に3モジュール実装で6入力のFILL、KEY MIX装置に設定可能
- オプションで電源二重化に対応

2. 機能チェック

1. 構成

【本体】

番号	品名	形名・規格	数量	記事
1	メインモジュール	KM-70HD/SD	1個	
2	BNCモジュール		1個	
3	GPIコネクタ	HR10A-7P-6P	1個	
4	取扱説明書		1部	

2. 筐体への取り付け

ご使用の際には、BNCモジュール及びメインモジュールを筐体に取り付けてください。筐体はVbus-70Bシリーズのいずれにも対応します。実装方法については「Vbus-70Bシリーズ取扱説明書」を参照してください。

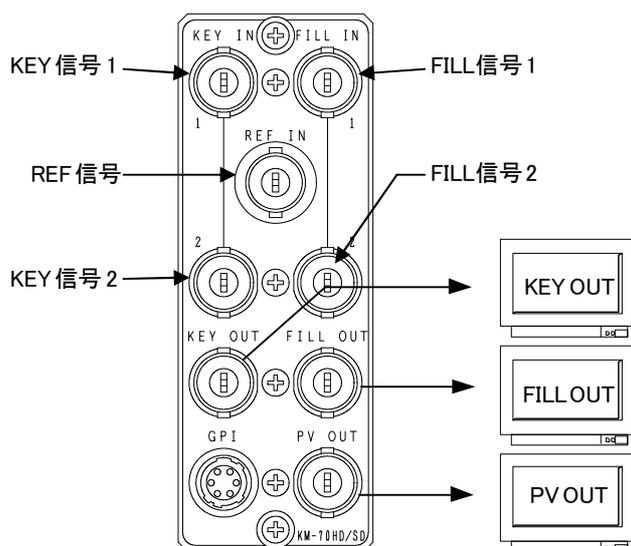
3. POWER ON までの手順

- (1)メインモジュール及びBNCモジュールを筐体へ正しくセットします。
- (2)筐体の電源プラグをAC100Vのコンセントに接続します。
- (3)KEY INにSDIのKEY信号、FILL INにSDIのFILL信号をそれぞれ入力します。
- (4)REF INにBBS信号、または3値SYNC信号を入力します。
- (5)PV OUTからの出力をマルチスキャンモニターなどに接続します。
- (6)筐体の電源ボタンを投入すると、筐体のパワーランプが点灯します。

4. 基本動作チェック

下記の操作で本機が正常に動作していることをチェックします。

正常に動作しない場合は、「6.トラブルシューティング」を参照してください。



- (1)「3. POWER ONまでの手順」に従って電源、信号を接続します。
- (2)HD、SDどちらで動作させるか、モードを選択します。デフォルトでHD-SDIです。設定を変更する際は「4.操作方法」を参照してください。

本機の“REF MASTER/SUB”の設定をDIRECTにします。

詳細は「4.6.REF SEL」を参照してください。

(3)KEY信号をKEY INコネクタ、FILL信号をFILL INコネクタに入力します。

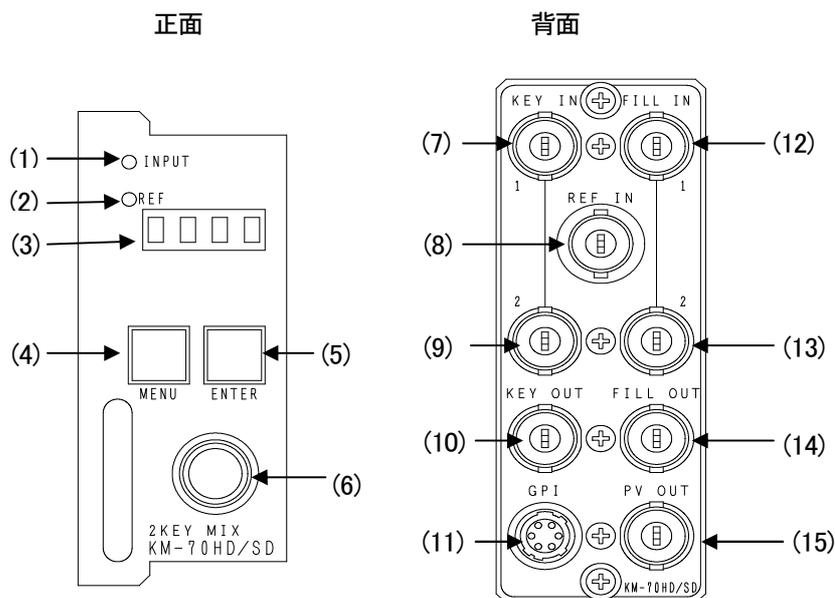
(4)BBS信号をREF INコネクタに入力します。

(5)PV OUTコネクタをマルチスキャンモニターへ接続します。

(6)PV OUTコネクタの出力が正常に出力されていることを確認します。

3. 各部の名称と働き

1. KM-70HD/SD



・正面

(1) INPUT

KEY IN コネクタにSDI (HDまたはD1) 信号が入力されると緑色に点灯します。

(2)REF INコネクタにリファレンス信号が入力されると緑色に点灯します。

(3) 表示器

設定メニューを表示します。

(4) **MENU**ボタン

設定メニューに入ります。設定メニュー表示中はキャンセルの動作をします。

(5) **ENTER**ボタン

各種設定を行うときに、決定します。

(6) 選択ツマミ

各種設定を行うときに、ツマミを回して選択します。

・背面

(7) KEY IN1

スーパー信号1(KEY)の入力端子です。

(8) REF IN

同期信号の入力端子です。同期信号の入力がない場合、本線映像信号に同期して動作します。

(9) KEY IN2

スーパー信号2(KEY)の入力端子です。

(10) KEY OUT

スーパー信号(KEY)の出力端子です。

(11) GPI

スーパーON/OFFの外部制御端子です。

(12) FILL IN1

スーパー信号1(FILL)の入力端子です。

(13) FILL IN2

スーパー信号2(FILL)の入力端子です。

(14) FILL OUT

スーパー信号(FILL)の出力端子です。

(15) PREV OUT

プレビューの出力端子で、メニュー画面が合成表示されます。常に本線映像信号にスーパーした映像を出力します。

4. 操作方法

1. 基本操作

(1) **MENU** ボタンを押して設定メニューに入ります。

(2) ツマミを左右に回して設定メニューの項目を選択します。設定メニューをキャンセルする場合、**MENU** ボタンを押します。

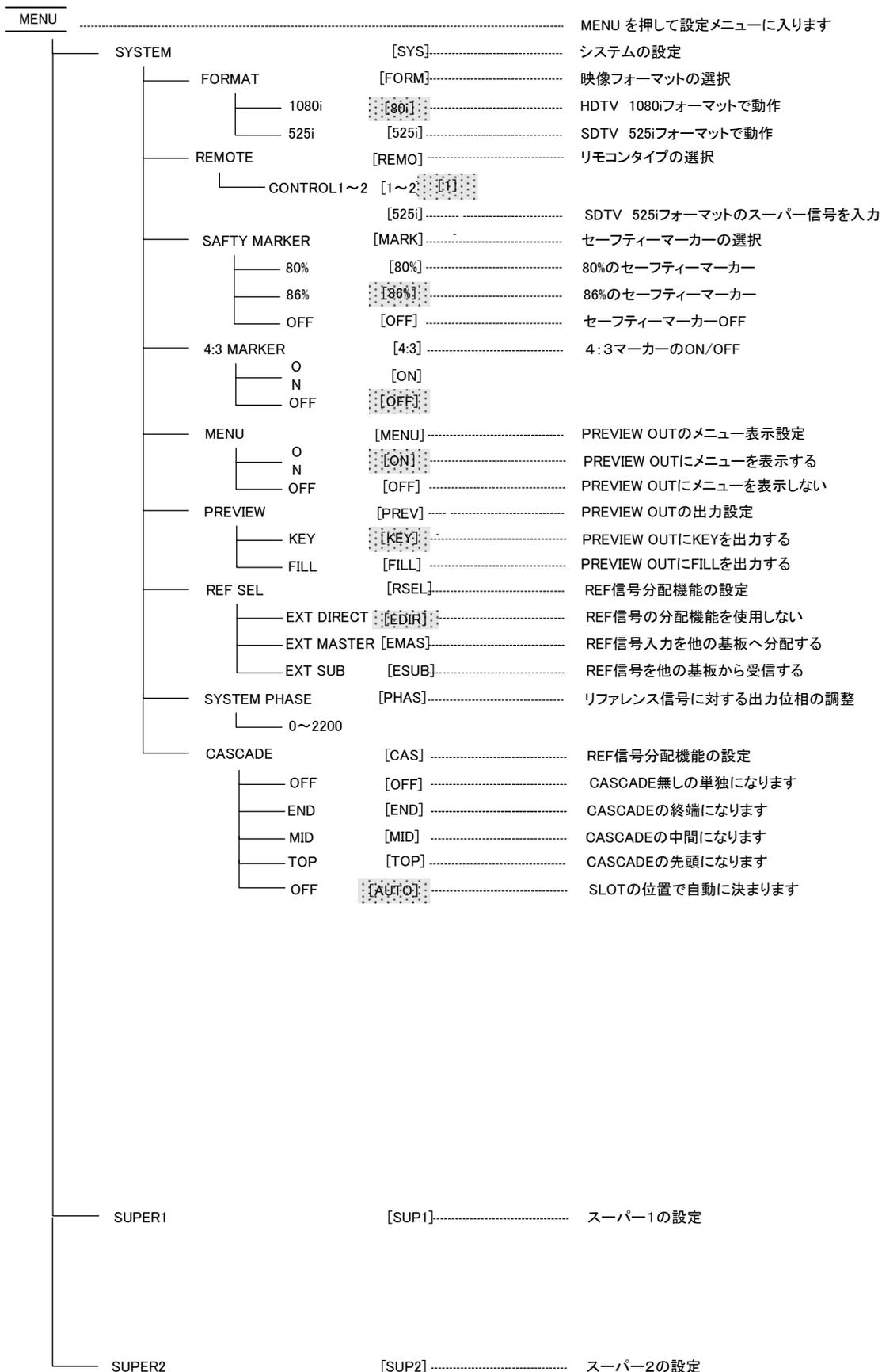
(3) **ENTER** ボタンを押して選択した項目を決定します。この時選択した項目によって更に下の階層メニューに移ります。階層下のメニューに入った場合、**MENU** ボタンを押すと一つ上の階層メニューに戻ります。

(4) (2)、(3)の操作を繰り返し、設定の変更を行います。

項目を選択した後、その設定を決定するには必ず**ENTER** ボタンを押してください。

**文章中の で表現される物はボタンを意味します。

2. メニューツリー



SUPER1	[SUP1]	スーパー1の各種設定
KEY1	[KEY1]	スーパー1のKEYの設定
KEY SELECT	[KSEL]	スーパーインポーズするKEYの選択
EXT	[EXT]	外部KEY信号でスーパーインポーズ
SELF	[SELF]	外部FILL信号でスーパーインポーズ
AUTO	[AUTO]	EXT/SELFの自動切換モード、KEY信号の有無で判別
KEY POSITION	[KPOS]	キーポジションの設定、FILLとKEYで位相差がある時の設定
H:0 V:0		
CLIP	[CLIP]	ルミナンス、クロマクリップの設定
LUMI CLIP	[LCLP]	ルミナンスクリップの設定
H:100 L:0		
CHROMA CLIP	[CCLP]	クロマクリップの設定
H:100 L:0		
AUTO GAIN	[AGA]	自動ゲインコントロールのON/OFF
ON	[ON]	
OFF	[OFF]	
FILL1	[FIL1]	スーパー1のフィルの設定
FILL POSITION	[FPOS]	フィルポジションの設定
H:0 V:0		
EDGE1	[EDG1]	スーパー1のエッジの設定
FORM	[FORM]	エッジモードの選択
OFF	[OFF]	スーパーにエッジを付けない
NORMAL	[NOR]	スーパーにノーマルエッジを付ける
DROP	[DROP]	スーパーにドロップエッジを付ける
SLANT	[SLAN]	エッジ傾斜の選択
SOFT	[SOFT]	エッジをソフトエッジにする
HAR	[HARD]	エッジをハードエッジにする
D		
EDGE WIDTH	[EWID]	エッジ幅の選択
2	[2]	エッジ幅を2ドットに設定
4	[4]	エッジ幅を4ドットに設定
6	[6]	エッジ幅を6ドットに設定
8	[8]	エッジ幅を8ドットに設定
SEPARATE	[SEPA]	エッジ幅を上下左右で違う幅に設定
TOP WIDTH	[TOP]	上のエッジ幅の設定
0~8		0, 2, 4, 6, 8が設定可能
BOTTOM WIDTH	[BOTM]	下のエッジ幅の設定
0~8		0, 2, 4, 6, 8が設定可能
LEFT WIDTH	[LEFT]	左のエッジ幅の設定
0~8		0, 2, 4, 6, 8が設定可能
RIGHT WIDTH	[RIGH]	右のエッジ幅の設定
0~8		0, 2, 4, 6, 8が設定可能
DIRECTION	[DIR]	ドロップエッジを付ける方向を指定
TOP LEFT	[T_L]	ドロップエッジを左上に付ける
TOP RIGHT	[T_R]	ドロップエッジを右上に付ける
BOTTOM LRFT	[B_L]	ドロップエッジを左下に付ける
BOTTOM RIGHT	[B_R]	ドロップエッジを右下に付ける
TRANSITION1	[TRS1]	スーパー1のトランジションの設定
ON TAKE MODE	[ONTK]	テイクオンのトランジション設定
CUT	[CUT]	トランジションをCUTに設定
FADE	[FADE]	トランジションをFADEに設定
OFF TAKE MODE	[OFTK]	テイクオフのトランジション設定
CUT	[CUT]	トランジションをCUTに設定
FADE	[FADE]	トランジションをFADEに設定
FADE IN SPEED	[INFS]	フェードインスピードの設定
1~150		1~150フレームの範囲で設定可能
FADE OUT SPEED	[OTFS]	フェードアウトスピードの設定
1~150		1~150フレームの範囲で設定可能
SUPER2		

MENU		MENUを 押して設定 メニューに入ります	
└─ SUPER2	[SUP2]	スーパー2 の各種設定	
└─ KEY 2	[KEY2]	スーパー2の KEYの設定	
└─ KEY SELECT	[KSEL]	スーパーインポーズする KEYの選択	
└─ EXT	[EXT]	外部KEY信号でスーパーインポーズ	
└─ SELF	[SELF]	外部FILL信号でスーパーインポーズ	
└─ AUTO	[AUTO]	EXT/ SELFの 自動切り替えモード、KEY信号の有無で	
└─ KEY POSITION	[KPOS]	キーポジションの設定	
└─ H 0:0		FILと KEYで 位相差がある時の 設定	
└─ CLIP	[CLIP]	ルミナンス、クロマクリップの設定	
└─ LUMI CLIP	[LCLP]	ルミナンスクリップの 設定	
└─ H 100:0			
└─ CHROMA CLIP	[CCLP]	クロマクリップの設定	
└─ H 100:0			
└─ AUTO GAIN	[AGA]	自動 ゲインコントロールの ON/ OFF	
└─ ON	[ON]		
└─ OFF	[OFF]		
└─ FILI2	[FIL2]	スーパー2 のフィルの設定	
└─ FILL POSITION	[FPOS]	フィルポジションの設定	
└─ H 0:0			
└─ EDG2	[EDG2]	スーパー2 の エッジの設定	
└─ FORM	[FORM]	エッジモードの選択	
└─ OFF	[OFF]	スーパー エッジを付 けない	
└─ NORMAL	[NOR]	スーパーに ノーマルエッジを付ける	
└─ DROP	[DROP]	スーパーにドロップエッジを付ける	
└─ SLANT	[SLAN]	エッジ傾斜の選択	
└─ SOFT	[SOFT]	エッジをソフトエッジにする	
└─ HARD	[HARD]	エッジをハードエッジにする	
└─ EDGE WIDTH	[EWID]	エッジ幅の選択	
└─ 2	[2]	エッジ 幅を 2 ドットに 設定	*
└─ 4	[4]	エッジ 幅を 4 ドットに 設定	
└─ 6	[6]	エッジ 幅を 6 ドットに 設定	
└─ 8	[8]	エッジ 幅を 8 ドットに 設定	
└─ SEPARATE	[SEPA]	エッジ幅を上下左右で違う幅に設定	
└─ TOP WIDTH	[TOP]	上の エッジ幅の 設定	
└─ 0~8		0, 2, 4, 6, 8が 設定可能	
└─ BOTTOM WIDTH	[BOTM]	下の エッジ幅の 設定	
└─ 0~8		0, 2, 4, 6, 8が 設定可能	
└─ LEFT WIDTH	[LEFT]	左の エッジ幅の 設定	
└─ 0~8		0, 2, 4, 6, 8が 設定可能	
└─ RIGHT WIDTH	[RIGH]	右の エッジ幅の 設定	
└─ 0~8		0, 2, 4, 6, 8が 設定可能	
└─ DIRECTION	[DIR]	1~ 150 フレームの 範囲で 設定可能	
└─ TOP LEFT	[T.L]	ドロップエッジを 付ける 方向を指定	
└─ TOP RIGHT	[T.R]	ドロップエッジを 左上に 付ける	
└─ BOTTOM LRFT	[B.L]	ドロップエッジを 右上に 付ける	
└─ BOTTOM RIGHT	[B.R]	ドロップエッジを 左下に 付ける	
└─ BOTTOM RIGHT	[B.R]	ドロップエッジを 右下に 付ける	
└─ TRANSITION2	[TRS2]	スーパー2のトランジションの設定	
└─ ON TAKE MODE	[ONTK]	テイクオンのトランジション設定	
└─ CUT	[CUT]	トランジションをCUTに設定	
└─ FADE	[FADE]	トランジションをFADE に設定	
└─ OFF TAKE MODE	[OFTK]	テイクオフのトランジション設定	
└─ CUT	[CUT]	トランジションをCUTに設定	
└─ FADE	[FADE]	トランジションをFADEに 設定	
└─ FADE IN SPEED	[INFS]	フェードインスピードの 設定	
└─ 1~ 150		1~ 150 フレームの範囲で設定可能	
└─ FADE OUT SPEED	[OTFS]	フェードアウトスピードの 設定	
└─ 1~ 150		1~ 150 フレームの範囲で 設定可能	

*[] 内は本体正面表示器の表示を示します。網掛け文字は工場出荷時の設定です。

工場出荷時への変更方法

MENUとENTERを押したまま、本体電件ボタンをONします。本体表示器にメニューが表示されたらMENUとENTERを放します。

3. AUTO GAIN [AGA]

KEYのクリップ量を自動調整するモードです。KEYのレベルのMAX、MIN値を検出して、KEYのレベルが100%~0%の範囲で動作するように自動調整されます。また、KEY入力が無い場合や、KEYが全画面黒レベルである場合、KEYは全画面100%のレベルで出力されます。

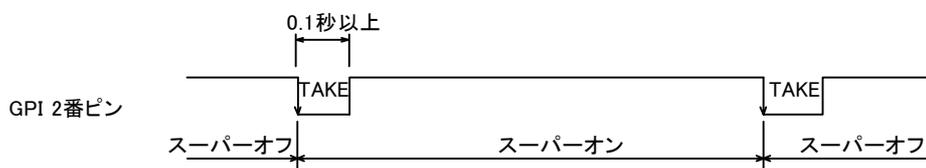
KEYのMAXレベルが意図して100%に満たない場合もレベルが持ち上げられてしまい、期待通りの結果が得られないことがあります。その際はAUTO GAINモードをOFFにして使用してください。

4. REMOTE [REMO]

GPIコネクタを使用してスーパーのON/OFFを外部制御できます。コネクタの仕様は、「5.外部インターフェース」を参照してください。

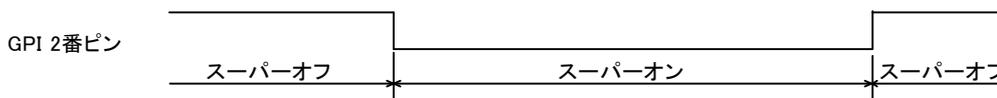
(1)CONTROL1

GPIの2番ピンをFILL1・KEY1、6番ピンをFILL2・KEY2のテイクに設定します。



(2)CONTROL2

GPIの2番ピンをFILL1・KEY1、6番ピンをFILL2・KEY2のテイク(レベル)に設定します。



5. 出力位相調整(SYSTEM PHASE)

KM-70HD/SDには出力位相を調整する機能があります。SYSTEM PHASEの調整範囲は±0.5Hです。

6. REF SEL [RSEL]

本機を同一筐体内で複数使用するときリファレンス信号を内部バス経由で他のモジュールに分配する機能があります。

・EXT DIRECTに設定した場合

リファレンス信号分配機能は使用せず、REF INコネクタに入力されたREF信号を使用します。

・EXT MASTERに設定した場合

REF INコネクタに入力したリファレンス信号を内部バス経由で他のモジュールに分配します。

**同一筐体内に複数のリファレンスMASTERのモジュールが存在しないようにしてください。

**同一筐体内に、コントロールモジュール(TLG-70C、VT-70C等)が存在する場合は、MASTERで使用できません。SUBまたはOFFの設定でご使用ください。

・EXT SUBに設定した場合

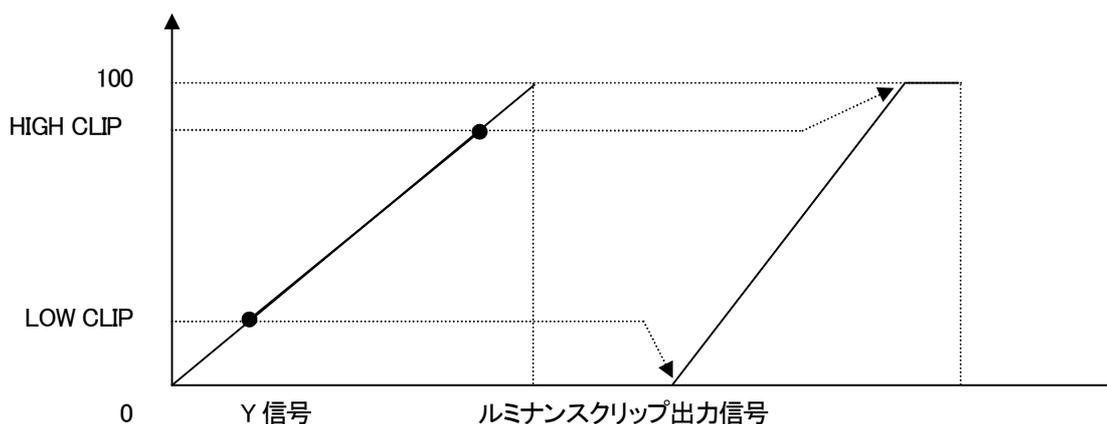
内部バスからリファレンス信号を受信します。ただし同一筐体内にリファレンスMASTERのモジュール(リファレンスMASTER設定のFS-70HD/SD、TLG-70C、VT-70C等)が存在しなければなりません。

7. KEY CLIP

スーパー信号の抜け具合を調整します。外部キーの場合はLUMI CLIPの設定が反映されます。

セルフキーの場合はフィル信号の輝度、彩度のレベルからキー信号を生成するため、LUMI CLIPとCHROMA CLIPの設定が反映されます。

(1)LUMINANCE CLIP

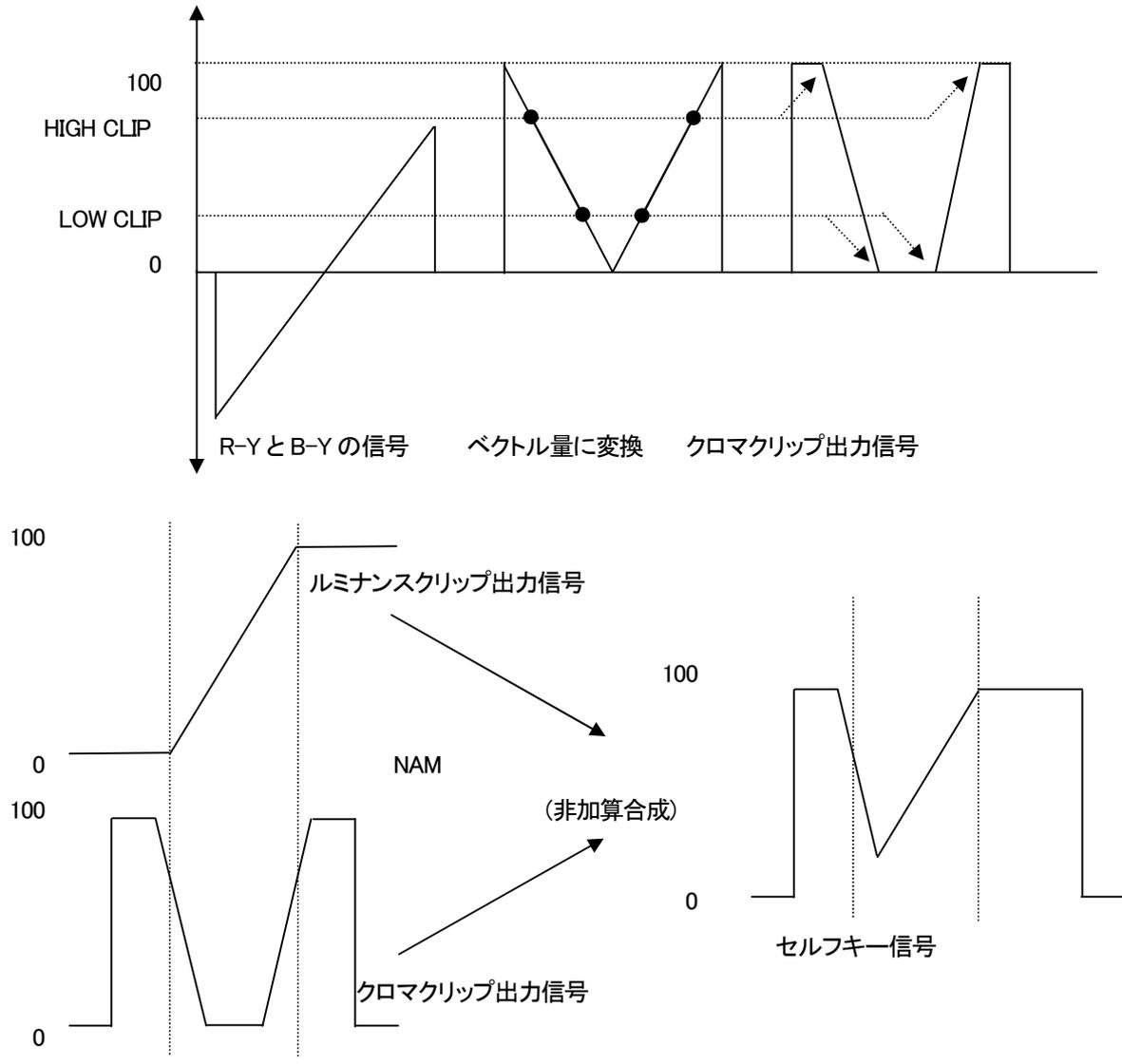


ルミナンスクリップ出力信号はロー・クリップ点を0、ハイ・クリップ点を100として出力されます。

H:100 L:0で入力信号がそのまま出力されます。

(2)CHROMA CLIP

KEY SELECTでSELF選択時(セルフキーモード)のみ有効です。

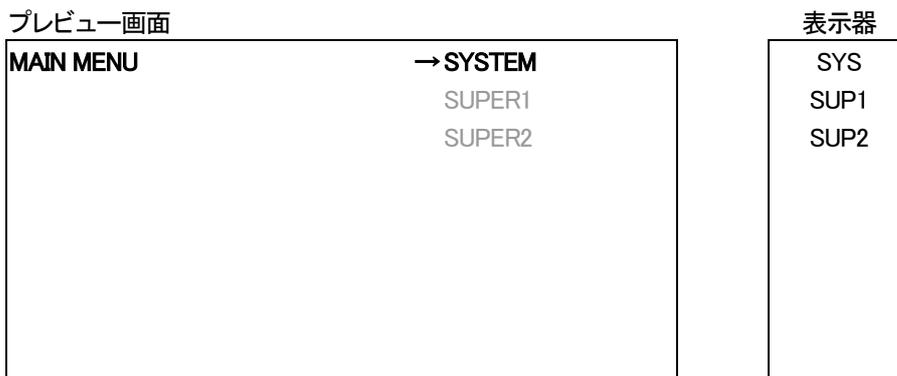


クロマクリップ出力信号は、R-YとB-Yの信号をベクトル量に変換し、ルミナンスクリップ出力信号と同様にHIGHクリップとLOWクリップを調整します。ルミナンスクリップ出力信号とクロマクリップ出力信号をNAM(非加算合成)し、セルフキー信号として使います。H:100 L:0で入力信号がそのまま出力されます。

8. 操作例

525i(D1-SDI)のライン信号にフィル+キーの信号をスーパーインポーズします。

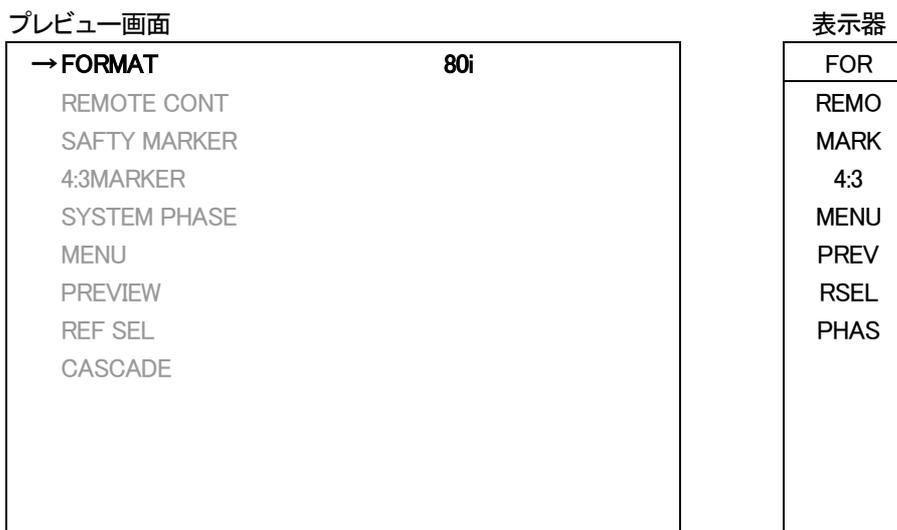
(1) **MENU**を押して設定メニューに入ります。**MENU**を押した直後は「SYSTEM」が選択されます。



図中の太い文字はプレビュー画面上で白文字表示されます。**→SYSTEM**は選択されていることを意味します。選択されていない項目はグレーの文字で表示されます。図中の表示器は本体正面の表示器のメニューを示します。ツマミを回すと項目が替わり、**ENTER**を押すと決定、または下の階層メニューへ移ります。キャンセル、または上の階層メニューへ移る場合は**MENU**を押します。

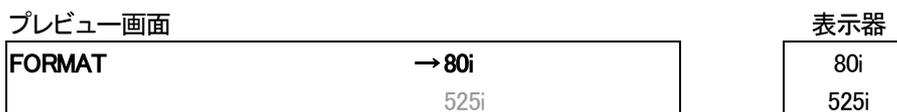
(2) ツマミを回して「SYSTEM」を選択し**ENTER**を押します。

(3) ツマミを回して「FORMAT」を選択します。



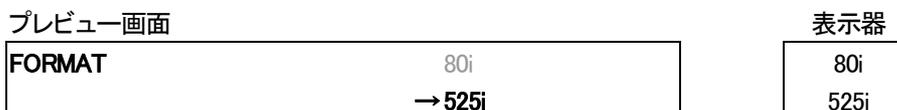
**例として現在は「FORMAT」が選択されています。

(4) **ENTER**を押して項目を決定します。「→」が以前設定されていたパラメータ部へ移動します。



**例として現在は「1080i」が設定されています。

(5) ツマミを回して「525i」を選択します。



パラメータを変更しない場合はMENU**を押します。以前の設定のまま「→」が項目部へ移動します。

(6) **ENTER**を押してパラメータを決定します。「→」が自動で項目部へ移動します。

プレビュー画面

FORMAT	80i → 525i
---------------	----------------------

表示器

80i 525i

(7) **MENU**を押してMAIN MENUに戻ります。

(8) ツマミを回して「SUPER1」を選択し**ENTER**を押します。

プレビュー画面

MAIN MENU	SYSTEM → SUPER1 SUPER2
------------------	-------------------------------------

表示器

SYS SUP1 SUP2

(9) ツマミを回して「KEY1」を選択し**ENTER**を押します。

プレビュー画面

SUPER1	→ KEY1 FILL1 EDGE1 TRANSITION1
---------------	--

表示器

KEY1 FIL1 EDG1 TRS1

(10) ツマミを回して「EXT」を選択し**ENTER**を押します。

プレビュー画面

KEY SELECT	→ EXT
KEY POSITION	SELF
KEY CLIP	AUTO
AUTO GAIN	

表示器

EXT SELF AUTO

(11) **MENU**を押し1つ上の階層に戻ります。

(12) ツマミを回して「TRANSITION1」を選択し**ENTER**を押します。

(13) ツマミを回して「ON TAKE MODE」を選択し**ENTER**を押します。

(14) ツマミを回して「FADE」を選択し**ENTER**を押します。

**OFF TAKE MODEも同様に設定します。

プレビュー画面

ON TAKE MODE	→ CUT
OFF TAKE MODE	FADE

表示器

CUT FADE

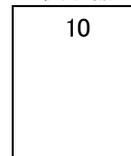
- (15)ツマミを回して「FADE IN SPEED」を選択しENTERを押します。
 (16)ツマミを回して「トランジション時間」を設定しENTERを押します。

**FADE OUT SPEEDも同様に設定します。

プレビュー画面



表示器



- (17)MENUを押して階層を抜けます。
 (18)GPIからTAKEを行うと、FILL・KEY OUTにスーパーが表示されます。

9. 工場出荷時の設定

下記の操作で工場出荷時の設定に戻ります。

- (1) MENUとENTERを押したまま、本体の電源ボタンをONします。
 (2)本体ディスプレイにメニューが表示されたら、MENUとENTERを放します。

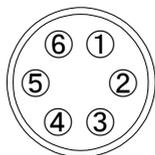
**メニューツリーの網掛け文字部が工場出荷時の設定です。

5. 外部インターフェース

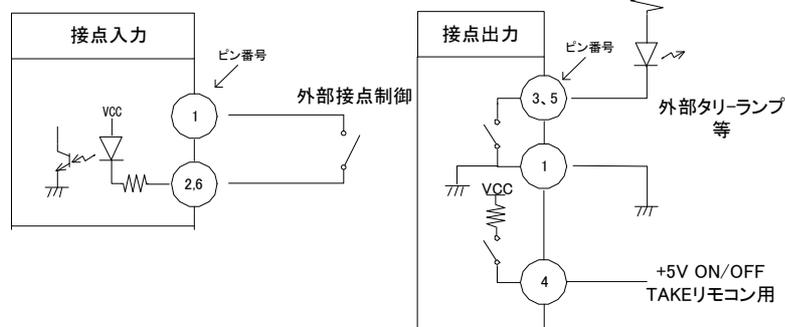
1. GPI

編集機のGPIなど外部からTAKEとEXT/SELF KEYが制御できます。

GPI コネクタ-背面図
ヒロセ HR10A-7R-6S



付属のGPIコネクタの半田付け側のピン番号です

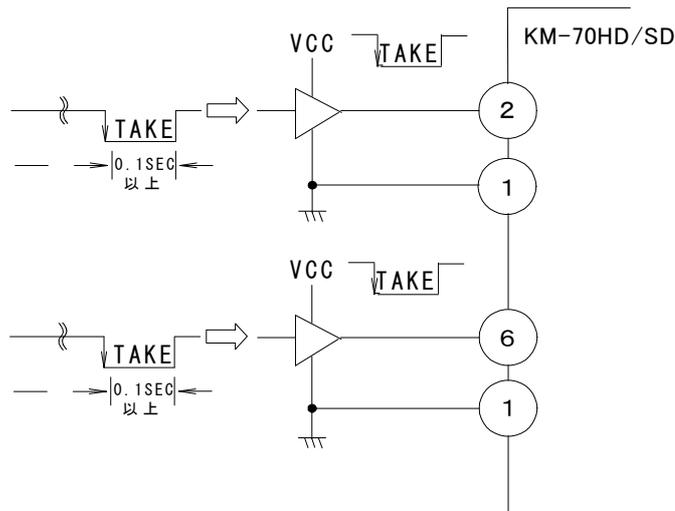


ピン番	信号	機能
2	接点入力	FILL1、KEY1 の ON/OFF。レベル制御 MAKE/ON、OPEN/OFF
6	接点入力	FILL2、KEY2 の ON/OFF。レベル制御 MAKE/ON、OPEN/OFF
1	GND	コモン
3	接点出力	FILL1、KEY1 が ON の時、MAKEします。
5	接点出力	FILL2、KEY2 が ON の時、MAKEします。
4	+5V	動作チェック用ユーザー使用禁止

注意)

接点の制御仕様は 7 パターンあり変更できます。詳細は「4.4 REMOTE」を参照してください。
 コネクタの4番からは+5Vが出力されています。指定機器(オプション機器)以外は接続しないようお願いします。
 TTL信号で制御する際は、吸い込み電流が12mAまで耐えられるデバイスで駆動してください。
 接点の絶対最大定格は 60V、300mA です。外部抵抗で電流を 300mA 以下に制限してください。

・TTLレベルでコントロールする場合(例:REMOTE設定 CONTROL1)



6. トラブルシューティング

トラブルが発生した場合の対処方法です。(文中の→は対処方法を示しています)

現象

入力信号素材が正常にモニターに出力されない！

原因

- ・SYSTEMのREFSELの設定はOFF、またはMASTERになっていますか？
- ・REF信号とLINE信号は同期していますか？
→REF信号とLINE信号は同期したものを使用してください。
- ・SYSTEMのREFSELの設定がSUBIになっていますか？
- ・同一の筐体の中にリファレンスMASTERのモジュールが存在していますか？
→SYSTEMのREFSELの設定をOFFにして本機にREF信号を供給してください。
- ・同一の筐体の中にリファレンスMASTERのモジュールが複数存在していませんか？
→リファレンスMASTERのモジュールを複数入れないでください。

現象

設定したデータがバックアップされない！

原因

- ・設定した最後にENTERを押してからメニューを閉じられましたか？
→設定した最後にはENTERを押してからMENUを押してメニューから抜けてください。

7. 仕様

1. 機能

KEY	ハイ・クリップ、ロー・クリップ調整。
EDGE	エッジ幅 0H、2H、4H、8H。エッジカラーはFILLのベース色。
セルフKEY、EXTKEY自動切り替え	EXTKEY が 10%以下の時、自動でセルフ KEY に切り替え。
MENU	各設定を KEY 出力にメニューを表示し設定します。
トランジション	カット、フェード(1~150 フレーム)。 ※トランジションの選択はメニューの設定。電源 ON/OFF しても保持されます。
ポジション移動	フィル、キーの表示位置を任意の位置に移動できます。
システムフェイズ調整	リファレンス信号に対して出力の位相を ±0.5H 調整できます。

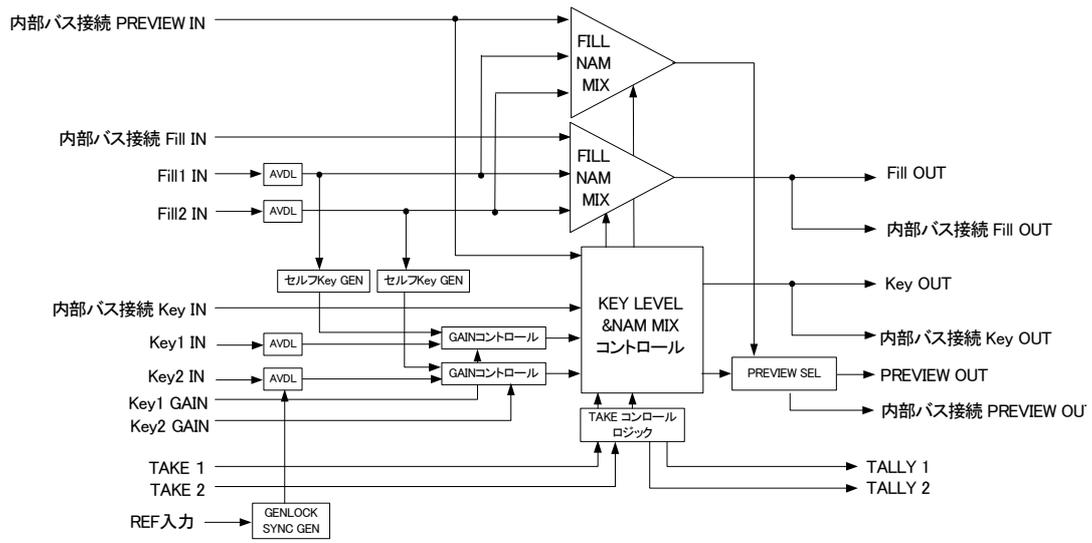
2. 定格

入力信号	
・ KEY IN	SMPTE292M、SMPTE259M-C 準拠、0.8V _{p-p} /75 Ω、BNC 1系統
・ FILL IN	SMPTE292M、SMPTE259M-C 準拠、0.8V _{p-p} /75 Ω、BNC 1系統
・ REF IN	BBS 0.43V _{p-p} /75 Ω、BNC 1系統
出力信号	
・ KEY OUT	SMPTE292M、SMPTE259M-C 準拠、0.8V _{p-p} ± 10%/75 Ω、BNC 1系統
・ FILL OUT	SMPTE292M、SMPTE259M-C 準拠、0.8V _{p-p} ± 10%/75 Ω、BNC 1系統
・ PREVIEW	SMPTE292M、SMPTE259M-C 準拠、0.8V _{p-p} ± 10%/75 Ω、BNC 1系統
映像フォーマット	HD: 1080i/59.94、SD: 525i/59.94 ※HDとSDは同時には使用できません。
外部/F	
・ GPI	HR10A-7R-6S 1系統 接点入力 × 2、出力 × 2
使用温度	0~40°C
消費電力	17.5VA (5V3.5A)

3. 性能

入力特性	
・ KEY IN、FILL IN	
分解能	10bit
サンプリング周波数	HD: 74.18MHz、SD: 13.5MHz
イコライザー特性	HD: 100m/5CFB、SD: 300m/5C2V
反射減衰量	HD: 5 MHz~742.5 MHz、15 dB 以上 HD: 742.5 MHz~1.485 GHz、10 dB 以上 SD: 5 MHz~270MHz、15 dB 以上
出力特性	
・ KEY OUT、FILL OUT、PREVIEW	
分解能	10bit
サンプリング周波数	HD: 74.18MHz、SD: 13.5MHz
信号振幅	0.8V _{p-p} ± 10%/75 Ω
反射減衰量	HD: 5 MHz~742.5 MHz、15 dB 以上 HD: 742.5 MHz~1.485 GHz、10 dB 以上 SD: 5 MHz~270MHz、15 dB 以上
立ち上がり/立ち下がり時間	HD: 270ps 以下(20%~80%間) SD: 0.4ns~1.5ns(20%~80%間)
オーバーシュート	10%以下
DCオフセット	0V ± 0.5V
ジッター特性	
アライメント	0.2UI
タイミング	HD: 1.0UI、SD: 0.2UI
信号遅延	1 フレーム
GPI	
・ 接点入力	12mA 最大定格
・ 接点出力	60V/200mA 最大定格

8. 系統図



御使用各位 殿

ビデオトロン株式会社

製造技術部

緊急時の連絡先について

日頃は、当社の製品をご使用賜りまして誠にありがとうございます。
ご使用中の製品が故障する等の緊急時には、下記のところへご連絡いただければ
適切な処置を取りますので宜しくお願い申し上げます。

記

◎営業日の連絡先

ビデオトロン株式会社 製造技術部

〒193-0835 東京都八王子市千人町2-17-16

TEL 042-666-6329

FAX 042-666-6330

受付時間 8:30~17:00

e-mail:cs@videotron.co.jp

◎土曜・日曜・祝祭日の連絡先

留守番電話 042-666-6311

緊急時 090-3230-3507

受付時間 9:00~17:00

※携帯電話の為、通話に障害を起こす場合がありますので、あらかじめご了承願います。

無断転写禁止

- ・このファイルの著作権はビデオトロン株式会社にあります。
- ・このファイルに含まれる文書および図版の流用を禁止します。